

# 公園へのバスケットゴール設置に関する方針

市民アンケート調査の結果、公園におけるバスケットゴールの設置について極めて高い需要が明らかになった一方で、設置場所の選定や利用ルールに関して多様な意見が寄せられた。これらの市民の声を最大限に尊重し、計画的かつ効果的にバスケットゴールの設置を進めるため、以下の通り方針を定める。

## 1. 基本方針：新規施設としての設置

テニスコートを転用する案に対しては、既存利用者からの反対意見や、他スポーツとの公平性を欠くとの指摘が見られた（問 10）。したがって、既存のテニスコート内ではなく、公園内の未利用地等を活用し、新たにバスケットゴール及び付帯設備を独立した施設として設置することを基本方針とする。これにより、他スポーツの利用機会を損なうことなく、新たなスポーツ需要に応える。

## 2. 設置対象公園の選定基準

市民意見では、安全管理や利便性の観点から、一定の機能を有する公園への設置が望まれている（問 8、問 10）。これらの意見を踏まえ、設置対象は原則として以下の要件を満たす公園とする。

- **公園種別**：運動公園、地区公園、近隣公園
- **既存施設**：他のスポーツ施設が既に整備されている
- **利便性**：利用者用の駐車場が確保されている
- **管理体制**：管理人が常駐、または巡回管理体制が整っている施設を優先する。これは、アンケートで多数指摘された騒音や治安悪化（たまり場化）への懸念（問 10）に対し、迅速な対応を可能とするためである。

## 3. 設置場所の決定プロセス

アンケートでは、特定の地域への設置要望が集中する一方、施設の地域的な偏在を指摘する声も上がっている（問 4-2、問 6-2）。また、最大の懸念事項として騒音問題が挙げられている（問 10）。

これらの状況を踏まえ、設置場所の決定にあたっては、以下の点を総合的に評価し、要望の多さのみで判断しない。

- **市全体の配置バランス**：TX 沿線や学園地区に要望が集中しているが、地理的分析では市北部エリアの施設不足が指摘されている（問 6-2）。市全体の公平性を考慮し、未整備エリアでの設置も重点的に検討する。
- **周辺環境との親和性**：騒音問題は設置に際して最大の課題となる（問 10）。このため、住宅地との距離の確保や緩衝帯となる樹木等の存在といった、公園と同様の環境を最重要の検討要素とすることが求められる。

## 4. 事業の推進フロー

地域住民との合意形成が事業成功の最大の鍵である（問 10）との分析結果に基づき、以下の段階的なフローで事業を推進する。

1. **候補地の選定**：上記 2、3 の基準に基づき、市が複数の候補地を選定する。
2. **地元協議**：候補地の地域住民（自治会等）に対し、アンケート結果をエビデンスとして提示し、事業の趣旨、懸念事項への対策（利用時間、フェンス設置等）を丁寧に説明し、意見交換を行う。
3. **設置の合意形成**：地元協議を経て、設置に関する合意が得られた場所から、具体的な設計・工事計画を進める。
4. **関係部署との連携**：事業の全段階において、アンケート結果をスポーツ施設課と密に共有し、市全体のスポーツ施策との整合性を図りながら推進する。

## 5. 整備内容の柔軟な対応

市民からは、「手軽に使える環境」を求める声（問 7-2「自由利用を支持」）と、「安全対策としてのフェンス」を求める声（問 8「物理的な安全対策」）が同時に寄せられている。また、夜間利用による騒音や治安悪化を懸念し、「夜間照明は不要」とする意見もある（問 10）。

このため、整備内容は画一的にせず、以下の通り柔軟に対応する。

- **基本整備**：安全にプレーできる舗装されたコート面（問 4-2 で最重要課題と指摘）を標準とする。
- **オプション整備**：
  - **フェンス**：道路へのボールの飛び出しリスクが高い場所では必須とする。一方、住宅地との距離が十分にあり、開放的な利用が望ましい場所では、圧迫感を考慮し設置しないなど、現地の状況に応じて判断する。
  - **夜間利用**：周辺への影響を考慮し、夜間照明は原則として設置しない。これにより、利用時間が日中に限定され、騒音や治安に関する懸念を軽減する。

## 候補地の評価と今後の進め方

提示された候補地について、本方針に基づき以下の通り評価する。

- **大池公園（筑波地区）**：
  - **評価**：設置優先度は高い。
  - **理由**：市北部エリアの施設不足（問 6-2）という課題に対応し、市全体の配置バランス改善に大きく寄与する。周辺が住宅密集地ではないため、騒音問題等の地元調整も比較的進めやすいと想定される。アンケートでの要望も確認されている。
- **二の宮公園、研究学園駅前公園（谷田部地区・学園地区）**：
  - **評価**：需要は極めて高いが、**地元調整が最重要課題**。
  - **理由**：アンケートで要望が最も集中する地区の一つであり（問 6-2）、潜在的な利用

者は非常に多い。しかし、両公園ともに周囲を住宅地に囲まれており、アンケートで最大の懸念点とされた「騒音」「治安」問題（問 10）について、地元住民の深い理解を得るプロセスが不可欠となる。

- 萱丸 2 号近隣公園（谷田部地区・TX 沿線地区）：
  - 評価：二の宮公園等と同様、**地元調整が最重要課題**。
  - 理由：TX 沿線の需要が高い地区であり、公園整備に関する過去の調査でも要望があった点は重要。ただし、ここも住宅地に近接しているため、騒音等の懸念に対する丁寧な地元協議が前提となる。
- 竹園東公園（桜地区・学園地区）：
  - 評価：現時点での設置優先度は**低い**。
  - 理由：要望数は最多だが、「要望の多さのみで判断しない」という方針に基づき評価。桜地区には既にバスケットゴールが 3 公園設置されており、ここに新たに設置することは市全体の配置バランスをさらに偏らせる可能性がある（問 6-2 の趣旨）。また、管理人不在の公園であり、トラブル発生時の対応への懸念（問 10）も払拭できない。